

平成 21 年 6 月 5 日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19890198
 研究課題名（和文） うつ病回復者の「状況構成」の変化の特徴

研究課題名（英文）
 Characteristics of changes of “Situirung” among people recovered from depression.

研究代表者

近田 真美子

北海道医療大学・看護福祉学部・助教

研究者番号：00453283

研究成果の概要：

うつ病回復者 9 名に半構成的インタビューを 3～4 回実施し、発病前から現在までの生き方の変更の有無とその内容を「状況構成」（Tellenbach、1976）の視点から明らかにした。

「状況構成」とは、自分の健康や、恋人などの他者や、仕事など身の回りのことがらと関わる時のその人独自の関わり方のことである。

その結果、対象者には状況構成の変化がみられ、共通点として、1) 職業領域から自己領域へのシフト、2) 対人関係からの撤退、3) ありのままの自分を吐き出せる「受けとめ」としての役割をとる人や環境が存在していたことが明らかとなった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	900,000	0	900,000
2008 年度	590,000	177,000	767,000
総計	1490,000	177,000	1667,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域老年看護学

キーワード：うつ病者の看護，状況構成，うつ病の回復過程，うつ病予防，価値観

1. 研究開始当初の背景

うつ病の予防や回復には、本人の価値観や生き方の転換が必要であると指摘されているものの、これまで具体的な援助方法までは提示されてこなかった。

うつ病は再発率が高く、長期治療が必要であることはすでに明らかになっており、彼らの生活が常に再発の危機を孕んでいる以上、生き方や価値観の転換を具体的な指標で捉え、看護援助を確立することは急務であると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、うつ病の回復過程における価値観や生き方の変化を「状況構成」(Tellenbach, 1976)の視点から具体的に捉え、その特徴を明らかにすることである。

3. 研究の方法

(1) うつ病患者を対象とした集団認知行動療法に1年間参加し、うつ病の回復過程の実態を観察した。

(2) うつ病回復者9名に約1時間程度の半構成的インタビューを行った。インタビュー期間は約10ヵ月であり、1名につき3、4回実施した。

「うつ病回復者」とは、うつ病ないしは、抑うつ状態と診断され、通院ないしは入院治療を6ヵ月以上受けた経験があり回復したと考えられる者とした。

インタビューは以下の流れで実施した。

①これまでの人生において重要であった出来事やエピソードを想起しやすいように人生地図(Glenら、1998)を記入してもらった。

②記入された人生地図を元に、対象者が想起した出来事から自由に語ってもらった。2回目のインタビューからは「そういう仕事の仕方はいつ頃からですか」といったように《発病まで》《発病時》《現在》の時間軸において【自己領域】【家族領域】【職業領域】への関わり方が具体的に把握できるよう、適宜、質問しながらインタビューを行った。

(3) 得られたデータを質的に分析し、状況構成の軸と、《発病まで》《発病時》《現在》までの時間軸に分類し、過去のデータと照らし合わせながら「状況構成」の変化を分析した。

「状況構成」とは、自分の健康や、恋人などの他者や、仕事など身の回りのことがらと関わる時のその人独自の関わり方のことであり、関わりの対象ないしは範囲を【自己領域】【家族領域】【職業領域】の3領域に分けた。

【自己領域】は、自分の健康や趣味といった身体的環境に対する関心が中心を占める領域を指す。また、【家族領域】は家族や恋人との関係といった性を基盤とした対人的環境に対する関心が、【職業領域】は仕事の仕方といった事物的環境に対する関与が中心を占める領域を指す。

4. 研究成果

対象者は、これまでの状況構成が通用しない状況で発症しており、回復過程において状況構成の変化がみられていた。

変化の共通点は以下である。

(1) 職業領域から自己領域へシフトしていた。

(2) 対人関係から撤退する期間が存在していた。

(3) ありのままの自分を吐き出せる「受けとめ」としての役割をとる人や環境が存在していた。

以上より、看護援助の視点として、自己との和解を視野に入れ、身体性の回復を図ること、1人ひとりの状況構成を考慮した上で一体化していた領域から一旦引き離す必要があること、状況構成を脅かすことのない他者や環境の存在により状況構成が変化する契機となり得る可能性があることが示唆された。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

近田 真美子

北海道医療大学・看護福祉学部・助教

研究者番号：00453283

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者